

采三寺記

さいじき

～ 東日本大震災犠牲者の方々のご冥福をお祈りします ～

再刊に当たって

お寺の事業・管理作業等から



住職 中村 浄光
かつて蓮光院寺報は『いのり』として昭和60年から9号まで出ましたが、勤務の多忙から休刊に追い込まれていました。あれから20年。今、『彩寺記(さいじき)』と改称して再び日の目を見ました。

<再刊の必要性>を感じたのは、皆さんの意識の中で蓮光院が次第に遠ざかっている、お寺の中身が伝わっていないという危機感からです。昨今の社会的背景には、信仰心の薄れや若い世代への継承がなされていないなどの現象だけではなく、**お寺からの情報発信が足りなかった**ことも大きくあると考えます。お寺の中身を十分に知っていただくことと、宗祖の教え、仏事作法、感謝、敬い、など日常で生かせる教えを聞き直してみるのも大切なことと考えます。お寺は他人のもの、別世界のものではなく、皆さん個人個人の大事な拠り所であることを改めて思い起こして頂かなければならないと思いました。

<彩寺記>に主に取り上げる内容は、名称に示すように四季に和ます草木花の表情やお寺の姿を映し出します。そして、お寺に関わる宗派の動き、行事の様子、日常の真言宗の教え、蓮光院を取り巻く諸課題、檀信徒皆さんの活躍、皆さんからの色々な情報などなど、読みやすいように工夫をしていきたいと思っています。

<定期便! 不定期便?>休刊の前歴がありますので、不定期として年2回ほどは出したいと思っています。どうぞご高覧をいただき、ご意見をお聞かせください。

再刊を喜ぶ



檀頭 池田 武
蓮光院が次第に充実し境内の整備、本堂破風の銅板巻き、避雷針設置、鐘楼修理などの様子は当時の寺報『いのり』で詳細に伝えられました。その後、客殿、庫裡、地藏堂の建立に加えて住職の仕事が過重になり休刊となっていたもので寂しい思いをしていました。昨年、住職も退職をし再び寺報を出したいと言っておられましたが、このたび趣を変えて新生『彩寺記』として再刊がなされたことを大変喜んでおります。申すまでもなく蓮光院は皆さんの大切な菩提寺であり、また財産でもあります。堅固に維持管理がなされ、時代の風を受けとめて、お寺が絶えず皆さんとともに歩んで行けるために、この『彩寺記』が架け橋になることを期待しております。

宗派の動き

23年度は「寺院所得調査」が行われる予定でしたが、東日本大震災のため、暫く延期になりました。これは4年に1度、豊山派宗務所が行う各お寺の総合税務調査でお寺の檀家数、動産、不動産を洗い出し、そこにかかる賦課金を査定するものです。これによって、明年以降お寺にかかる賦課金が決まります。動産は1月3日の檀信徒総会で示された蓮光院の預貯金の一切です。不動産は法務局の示す境内地、寺有地となります。当院では運用益を上げる預貯金も不動産もありませんので査定そのものは問題有りません。実はこれは22年に実施予定でしたが、全国の市町村合併による混乱と都市部昇格による賦課金増額が問題とされ、1年間賦課率算定の再検討が行われてきたものです。

<東墓地・隣接地樹木の枝落とし>
日当たりのいい東墓地に隣接する鎮守の森は樹木の生育がめざましく、大きくお墓にかぶさってきました。この森には、県の銘木百選の夕モの大木があり、枝打ちによる衰弱が心配なのですが、枝の落下による被害の心配も深刻になってきました。お墓の保護と、全体の景観や鎮守の森の保全に配慮しつつ枝落としをすることになりました。

草住役員から骨を折ってもらい、鎮守の森の管理者である町内会長茂田井敏郎さんから温かいご理解をいただいて、去る2月27日に行いました。高度12m、径20～30センチの太枝22本、業者とお寺役員が1日ばかりで手際よく行いました。



木陰のない墓地には潤いがありません。あのお釈迦様も、沙羅双樹(夏椿)の下で涅槃(死)に入られたことは誰もがご存知です。そばに木陰がある墓地、これこそが理想の墓地であると思えば、ここは鎮守の森と繋がって午後には強い日差しを遮る木陰がある誠に理想的な墓地です。



<墓地参道清掃>

今年も始まりました。豊かな自然に囲まれた好環境の墓地には、一風毎に沢山の木の葉や枯れ枝が散乱します。限られた清掃費ですから、多く積もった頃を見計らった清掃です。たまたまお墓参りをした時に落ち葉が多かった、という時もありますし、タイミングよく綺麗な時に墓参できたということもあるでしょう。

<冬囲い外し>

3月20日・お彼岸の行事『御影供』のお齋が終わると、休む間もなく冬囲い外しの仕事が行われました。**おらが寺の精神**で役員全員による作業。本堂前の合掌、本堂を囲うネットの巻き上げ、庭木の雪囲い外し、側溝の清掃など一冬を無事越せたことを喜びながら手際よく片付けました。この日は幸い天候にも恵まれ、昨秋の作業手順などを確認しながら一汗流しました。

お寺の行事から

<お寺年始・檀信徒総会>

1月3日、心配された雪も落ち着き、まずまずの天候でした。約60名ほどの檀信徒が出席。新年の法楽に続いて、総会が開かれました。池田檀頭から年頭の挨拶とともに寺院運営に関わる課題の説明がありました。決算の状況と今後の財政見通しの上から、23年度の事業計画・予算案が提案され、参加者の前向きな賛同をいただいて可決されました。この度の維持管理諸経費の3千円増額により、22年度並みの維持管理ができると考えています。

<御影供>



3月21日は我が宗祖・弘法大師の御入定の日(ご命日)です。今年20日(日)におこわれ、40名程の熱心な皆様にご参加くださいました。シリーズで弘法大師の教え、真言宗の教えについてお説法をしてきましたが、今年『真言宗と護摩祈禱』と題して行いました。

← 焚かれている護摩祈禱の火

★ 22年度のイベントから ★

とにかくよかった！ 高野山・本山参拝旅行
22年11月14～16日

好天に恵まれたこの日午前6時45分、蓮光院26名、円蔵寺7名による合同参拝旅行は順調に出発。初日は1日中バスの中だから、飲むのが仕事。夕暮れ5時にやっと高野山に到着。

<宿坊>の『密蔵院』は思いの外綺麗で、学僧さん達のキビキビとした動きが清々しい。足腰を十分伸ばして期待のお齊に。手間をかけた精進料理に舌鼓をうちながら戴く般若湯は、これまた格別に滲みました。

<奥の院>2日目。奥の院は朝の冷気に包まれ、まだ人影もまばら。霊気漂う杉木立の中、ガイドさんの絶妙な説明に引き込まれて、日本の歴史上の数々の偉人、天下びとなどの墓を見つめる。それらを引き寄せた弘法大師の御徳の深さに、改めて畏敬の念を深めました。

奥の院御廟にはご入定(亡くなる)そのままのお姿で、今なおこの世に身をとどめておられる弘法大師に、全員でお経と祈りを捧げました。

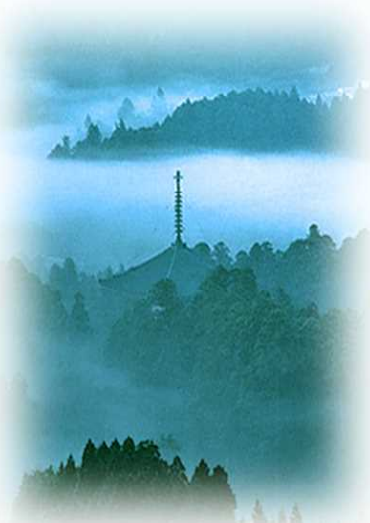
<石舞台・飛鳥寺・橘寺>午後一路飛鳥時代にタイムスリップして、古墳の石舞台、聖徳太子ゆかりの橘寺、そして飛鳥大仏のある飛鳥寺など、滅多に訪れることのない名刹を拝観しました。飛鳥寺(安居寺)は真言宗豊山派であることには驚きでした。若い住職の上手い法話に敬服しました。

<赤目温泉>気持ちの隅では心待ちにしていた場所。伊賀の秘湯とも言われる名湯につかり、2日間の疲れを落とす。そして始まった宴会は一気に盛り上がり、各人の18番が響き渡りました。



↑ 本山登り回廊

内容のあるしかも楽しいものとなりました。5年後に少しルートを変えてまた計画します。今回逃した方は、今から貯金をしておいってください。いのちの洗濯に行きましょう。



↑ 石舞台の前で



↑ 長谷寺五重塔



← 八重の花びら



→ 蓮光院山門脇のしだれ梅

<参拝旅行を記念して植樹>
赤目温泉での宴会祝儀の残金を元手に旅行を記念して蓮光院山門脇に記念樹を植えました。その木は『しだれ梅』。三条保内の造園で見つけて買って来た物です。産地は千葉。樹高4メートル。枝張り2メートル。この春2月早々から花を咲かせました。淡いピンクの八重、丸くポッチャリとした見映えのする花です。6度の雪に耐えながらも1ヶ月にわたって花を見せてくれて、毎春の花が楽しみとなりました。

～ 心にとまった詩から ～

《 うちじゅうのこころもそろろう 》

はきものをそろえると
心もそろろう
心がそろうと はきものもそろう
ぬぐとときに そろえておくと
はくときに 心がみだれない
だれかが みだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと
せかいじゅうの
ひとの心も そろうでしょう

(ある布教資料から)

～ 編集後記 ～

目を疑うような巨大津波。想像を絶する惨状を目の当たりにしました。

3万人を越そうとする犠牲者の数。その無念さと遺族の悲しみを思うと、今生きていられることのありがたさが身に染みます。ありがたい、ありがとう、もったいない、おかげさまで... 深く重いひびきがあります。

皆さんの息災安穩はお大師さまの願い、蓮光院の祈りです。

この紙面で伝えきれなかった情報は、別紙に続きます。



ミニ法話 生活の中の仏教語から

がまん
～『我慢』～

◆ KY にならないように我慢！

何年か前から、若い人たちの間で「KY」という言葉が使われるようになりました。

「KY」とはKが「空気」、Yが「読む」の頭文字で、空気が読めない人を意味します。

また、場の空気を読んで欲しい時にも「もう～KYだな～！」というようです。

現代の若者たちは、仲間の中で浮きたくない、嫌われたくないという意識が強くなるばかり、自分の言いたいことを我慢して、周りに合わせて行動しています。その結果、自己を押さえすぎて、自分で自分がわからなくなってしまうこともあるそうです。

◆ 我慢とは？

一般的に、「我慢」は辛抱すること、耐え忍ぶことを指し、よい意味に用いられています。ところが、仏教語の「我慢」はあまり好ましい意味ではありません。

仏教で「我慢」とは、他人と自分を比較して、他を軽蔑し、自らを勝れていると自惚れることをいい、その心理状態を七種のはたらきに分け「七慢」と称しています。

我慢は、その一つです。「わたしは、わたしは・・・」と、我（自分）に執着することから起こる慢心を意味し、「高慢」、「驕り」「自惚れ」と同義語です。これは、私たちの苦しみのもとになる煩惱なのです。

◆ 「我慢、我慢・・・」は、ほどほどに！

仏教語の本来の意味のように、自己主張するばかりではよくありません。しかし、何でも「我慢、我慢・・・」と自己を抑制し過ぎるのも問題です。

「こんなことを言ったら、生意気だと思われるのではないかと、周囲の評価を気にして言いたいことを言わずに我慢。また、「私さえ我慢すれば、仲良くいられるだろうから・・・」と、友達の顔色をうかがいながら自分のやりたいことを我慢。

こういった小さな我慢の積み重ねが心にストレスをため込み、身体や心の健康を損なう原因にもなり得ます。

自分の気持ちや考えを素直に表現することは間違ったことではありません。自分の言いたいことはしっかりと伝えること、理不尽なことにはしっかりと立ち向かうこと、助け合って欲しい時には助けを求めるとは必要なことです。

その時に忘れてはいけないことは、高慢な驕りの心は捨て、相手の立場や意見も尊重することでしょう。

あなたは、日常生活の中で、周囲を気遣い、周りの空気を読むあまりに、自分の気持ちを抑え過ぎてはいませんか。

昔から、我慢することは日本人の美德とされてきました。しかし、現代の若者たちのような状況を見ていると「我慢は美德」と必ずしも言えないような気がします。

(豊山派布教研究所資料 より)

【23年度に年忌供養をなされた方々】

～ ありがとうございます ～

1/23 見竹美智代様	5/5 神林 奈央様	9/24 見竹美智代様
〃 室賀 昇様	6/12 武井 辰夫様	10/1 八木 一幸様
2/9 西巻 勝雄様	6/19 西村加奈江様	10/9 生方 國延様
2/13 池田 武様	6/25 大塩 久雄様	〃 大堀 公裕様
3/13 金子 豊様	7/8 西村 亨様	10/23 武井 勝則様
4/2 大塩 茂様	7/9 大塩 茂様	〃 武井 義明様
4/10 長沢 俊一様	〃 西村 正晴様	10/28 吉村 保男様
4/16 大塩 豊次様	7/25 片山美代吉様	11/26 矢作 康三様
4/23 大塩 定重様	8/17 滝沢 実様	12/4 西巻 善幸様
5/1 西巻 一仁様	8/27 大塩 和弘様	12/25 西巻 正和様

お寺の維持・管理から

(数多くの事柄がありましたが、一部を紹介します)

<止まらぬ崖の滑落>

県への要望により、23年9月から2機のセンサーによる滑落調査が客殿脇の崖に設置されました。3千万円の経費で1年間の観測です。

県によって土留め工事が行われてから21年。絶えず崖は下がり続けて来ました。

観測の結果と県の対応がどのようになるのが、高い関心を持って見えています。



↑ 滑落観測センサー



一年間の主な作業から
<雨の中、役員による多回作業>



<秋葉権現整地>



<奉仕作業>



<西巻地整備>



<落ち葉燃やし>



<大声鐘取付>



<風よけトタン取付>



<内陣整理棚製作>



<向拝・階段手すりカバー>



<仏具磨き>



<地蔵堂・看板製作>

真言宗豊山派

蓮光院 季刊寺報

柏崎市米山町2260 (0257-26-2109)

采三寺記

平成25年5月 再刊3号 (通刊12)

24夏 ~ 25春

～ 東日本被災地の一日も早い復興を願う日々です ～



寒風にさらされながらも・・・ 鐘楼脇の『べに椿』

～ 秋葉権現を境内に再建 ～ 震災から5年ぶりの復旧



平成19年7月の中越沖地震で、秋葉山頂にまつられていた秋葉権現が崩れてから5年。そこでの再建をあきらめ、境内に保管しておいた祠を2年かけ平成24年10月、旧鐘楼跡に再建しました。秋葉山に祀られ

てから約2百年を経ての遷座でした。業者に頼まず、役員有志で仕上げました。素人の仕事ですが、まあまあ良しとしてもらえれば有り難いです。火難・水難からの守り神です。境内にお越しの際にはお参りしてみてください。



祠の組み立て 完成を見届けて・開眼

～ 境内裏・市道16-38線側溝改修工事 ～



3年越しに市道をのりかえ、境内裏の側溝を2月24日に改修しました。大雨の際に、狭い側溝から水があふれ出し石垣の基礎が壊れていましたが、この度の改修で大きな側溝が入り問題が解消しました。

この道路は、以前2度のかさ上げにより、70cm～250cm(門の前)高くなっています。それに伴って、道幅が広がって見えますが、側溝の掘削をすると元の路面や古い側溝の位置が出てきて、境界の確認を改めて市と行き、改修後の側溝を境界とすることで合意しました。

☆よみがえった 客殿 ☆ 外壁塗装工事を終えて



25年度予算に計上された客殿外壁塗装工事が4月9日から始まり30日で完了しました。これが同じ客殿か、と見違えるほど綺麗に、凛とした雰囲気すら感じられます。請け負った近藤塗装店の武男さんは、釘の頭打ち、コーキング割れや壁割れの修理などをした上で、下地塗り、下塗り、本塗りで、隅々まで丁寧な仕事してくれました。やはり檀家の業者ならではの仕事です。その心意気に痛く敬服しました。

～ 蓮光院ボランティア はすの会 発足 ～

お寺年始・総会で皆さんにお願いしたボランティア会員の募集結果は、28名にも上る参加者を得て4月に発足しました。果たして応募してくださるか、一抹の不安を覚えながらの募集でしたが、菩提寺蓮光院を大切に維持し後世に伝えるという尊いお気持ちの方が多くおられ、有り難く思いました。年間15回を予定し、お一人1～2回の活動になります。お互いに親交を深めながら、実りある活動になることを願っております。

- 以下は参加登録の皆さん (五十音・地域順)
- | | | |
|---------|--------|---------|
| 浅貝ヨシ子さん | 池田武さん | 池田アヤ子さん |
| 大塩定重さん | 大塩トセさん | 大塩すみ子さん |
| 薩美富太郎さん | 武井義明さん | 塚田幸子さん |
| 西村幸雄さん | 星野和久さん | 村山充明さん |
| 池野栄一さん | 池野稔さん | 武井真弓さん |
| 塚田建一さん | 西巻映子さん | 西巻春美さん |
| 西巻正和さん | 二見大さん | 見竹トク子さん |
| 見竹美智代さん | 吉崎秀雄さん | 吉崎芳拓さん |
| 常山光雄さん | 西巻広さん | 遠藤和信さん |
| 中村浄光 | | |

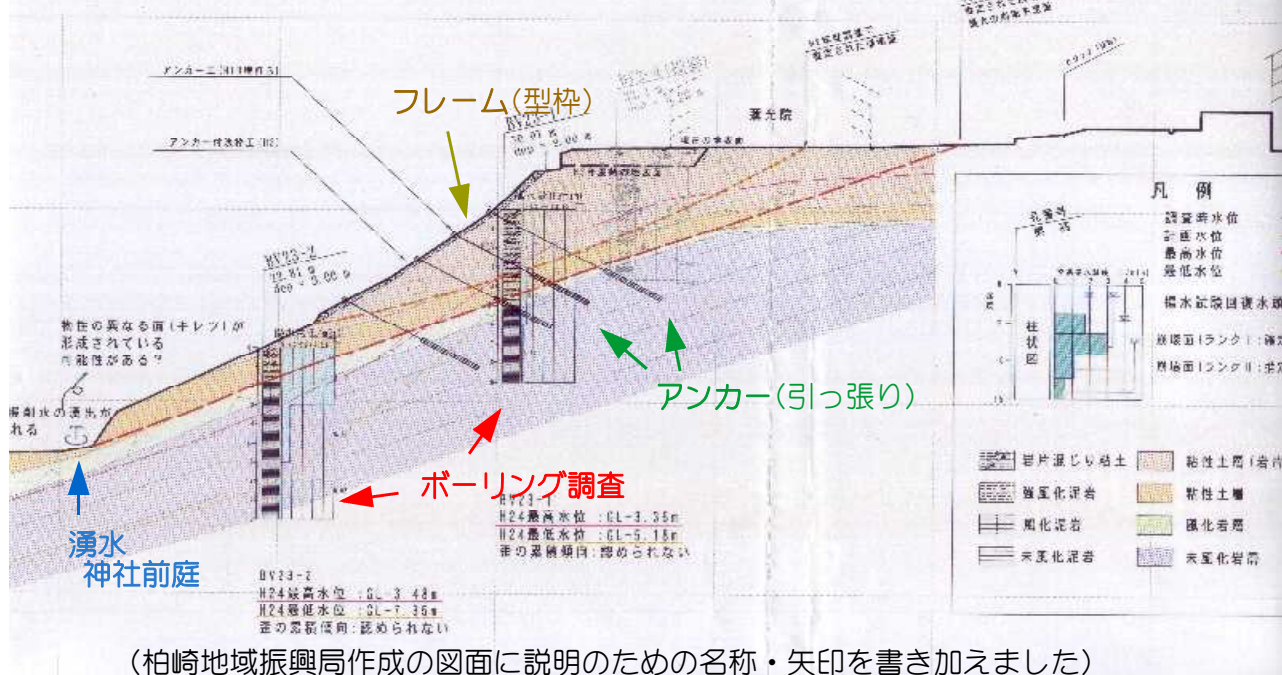
< 第1回活動の様子・・・草取り 5/12 >

初回にふさわしくこの日は晴天。池野稔さん、見竹美智代さん、西巻春美さん、西巻映子さんと住職5人が汗を流しました。さすが、慣れた手つきではかどりがあっていつの間にか綺麗になりました。感謝感謝です。



五町地区 急傾斜地崩壊防止 断面図 S=1:2

蓮光院境内地断面図 (部分)



(柏崎地域振興局作成の図面に説明のための名称・矢印を書き加えました)

23年9月～25年3月まで境内の地滑り調査の結果について3月25日に現地でも報告と説明がなされました。結果は「**滑落なし**」との返答。誰の目から見ても、コンクリートのクラックが広がり、地盤が下がっている現状をどう説明するのか。県と業者に問い詰めましたが、両者とも説明が出来ませんでした。結局、**県も業者も調査方法の甘さを認めて、再度予算を付けて調査をし直す**ことを確約しました。

左の図は境内地の断面図です。大きく4層が重なっており、上から「岩片混じり粘土層」「粘性土層」「風化岩層」「未風化岩層」となっていますが、上の層ほど動きが大きいようです。また、傾斜地の下部では湧水が認められることから、この水も動きを促しているようです。かなり深いところから連続的に滑落しているメカニズムが次第に明らかになってきました。陳情を繰り返して既に23年になります。長過ぎます。

ミニ法話 生活の中の仏教語から

～ 『一期いちご』 ～

いちごいちご
一期一会

百貨店入社式のことばです。「ご入社おめでとうございます。今日から気持ち、立場を切りかえてください。今まではお客様でした。今日からは、お客様に良い商品をお届けし、喜んでもらえる仕事をしてください。一回一回のお客様との出会いを大切に誠意をもって励んでください・・・」

お客様と接するときは、常に感謝の気持ちを忘れず、この機会が一生に一度限りであるという思いで最大限のサービスを提供する、まさに一期一会の精神です。

一期一会は茶道の言葉です。茶席は、一生に一度の出会いだから、主人も客も万事に心を配り、誠意をもって交わることを大事にします。お客を第一に考え、一つ一つの瞬間は再び繰り返すこと無く、その時その時を重んずべきことを説いています。こうした「相手を敬い、もてなす」精神は、これからも伝えていきたい美しいものです。

一期の縁とおもう

一期一会の「一期」とは、仏教のことばです。人が生まれてから死ぬまでの一生涯、修行のために限った一定の期間を意味します。

私たちは、一生の間、職場、学校、地域、家族など組織や集団の中で、人と関わりながら生きています。

その中にいると心やことばが上手く伝わらず、すれ違い、人間関係で悩むことがあります。

「なぜ、分かってくれないのだろう・・・」

「あんな言い方をしなくても・・・」

悩んでしまうと、人とふれ合わず、自分一人でした方が楽だと思ってしまうこともあります。

このようなときこそ、落ち着いて考え方を改めてみてはいかがでしょうか？

「一期」の中で生きていくからこそ、人の出会いがあり、その出会いは縁であり、最初で最後の大事な瞬間かもしれないと。

また、「一期」の出会いには、人だけではありません。



- ・ 目にうつる風景
- ・ 雨や雪のおと
- ・ 手作りのごちそう
- ・ 季節ごとの花のかおり
- ・ 温もり、やわらかさ

さまざまな出会いを「一期一会」とおもう、今を大事に生きたいですね。

(豊山派布教研究所資料 より)

《 やることは いっぱいありますよね ! 》

《 見せてますか？ 親のすがたを 》

子どもは親の姿を見て育ちます。無言にして大きな教育です。親だけではない。おじいちゃん、おばあちゃんの姿も見ています。

朝でも晩でもいいから、お仏壇にお明かしを灯し手を合わせる姿、見せてますか。成長するにつれて気づくでしょう。今の家族のほかにもこの家族を残してくれた人たちのいたことを。命のつながりの末に自分がいることを。そして、敬うところを。

《 教えていますか？ 仏事のいろはを 》

法事、葬儀などは独特のしきたりがあり、その進め方は親から子へと教えなければなりません。

特に目を引くのが施主の挨拶やお斎の進め方です。親から何も教わっていないなと思えることをしばしば目にします。本人が気の毒に思うことすらあります。仏事全般のしきたりや作法は数々あります。教えられることはきちんと教えておきましょう。

お寺には年3回の行事がありますが、1回は若い人を参加させてください。お寺でも、今後それらについて具体的にお伝えします。

《 準備を整えていますか？ 》

家族に残すもの、整理・片付けをするもの、伝えておくもの、希望する終末のかたちなど、エンディングの準備はこころの余裕のある内に心がけておきましょう。

【 24年度に法事・上げ齋供養をなされた方々 】 ～ ありがとうございます ～

1/23 見竹美智代 様	7/1 二見 大 様	9/1 近藤留三 様
4/7 大塩 茂 様	7/14 西巻春美 様	9/29 矢作康三 様
4/14 常山光雄 様	7/14 西村成太 様	10/10 滝沢 實 様
4/1 大塩さかひや 様	7/20 平野耕平 様	10/11 大塩千代 様
4/21 西村伸一 様	7/21 西巻映子 様	10/21 片山美代吉 様
4/22 大谷 實 様	8/5 八木一孝 様	11/3 吉崎幸雄 様
5/6 室賀 昇 様	8/10 長沢俊一 様	11/11 大塩敏久 様
5/20 西村源一 様	8/11 舟山琢郎 様	12/16 西村秀春 様
6/21 丹羽 収 様	8/18 遠藤和信 様	12/25 西巻 正和 様
6/30 大塩久雄 様	8/25 西巻正和 様	

采三寺記

さい

じ

き



咲く・・・夏の風を感じながら・・・

境内石垣の下に咲くコリ。植えてから初咲きとあって、どこかきこちなさがあるが懸命に見える。その一途さに、風よ吹くな、雨よ打つな、と願う。あや、容赦なく流れる年月が、また懐かしい風を吹かせている。老いに突き進みながら今日よりも明日、今年よりも来年はもっとこの境内を花で包みたいと果てぬ夢を追う。み仏の庭に相應しい風が香るようにと。

◆ 無事完成 永代供養墓 〈静せい〉



御霊には静かに眠っていただきたく静(せい)と命名。土木工事は武藤建設さん 石工工事は小林石材さん

座長 西村幸雄役員 渾身の作

お寺からの補助金と申込者の出資金とによって東墓地入り口に永代供養墓が完成しました。江戸の昔から祀られてきた「光明真言供養塔」を本尊の代わりとして塔に据えた永代供養墓です。基盤には光明真言破地獄曼荼羅のお経を梵字で刻みました。

工事はお墓管理検討会議座長 西村幸雄さんの終始厳しい監督と指示によって、求めた以上の強度、安定性、デザインの総てにおいて堂々とした立派な仕上がりとなりました。

西村さんは手がけた基礎本体の工事が終わった後も、勤めの帰りに必ず寄って石工工事の進み具合、規格の確認を欠かしませんでした。任されたことに責任を持つとは、まさしくこのような姿勢を言うのだと思いました。

開眼は6月8日朝、住職と検討会議委員が申込者の代理として執り行いました。今後は第2次募集としてご希望を募ります。詳しくは座長西村役員、または住職にお尋ねください。

◆ “ 献花 ” という 功德を積んだ女性たち

お寺は一年中花を絶やせません。花のない季節、夏の水のすぐ腐る時期は花も保ちません。仏様にはやはり生花が似合うのです。そうはいっても、常時飾れないのが現状です。そんなお寺の事情を知り多くの花を上げてくださった方々がいます。顕著な女性たちがいたことをお知らせしましょう。

◆ 近藤ハナさん (今は故人となった上州屋のおばあさん)
この方は花作りが上手でした。花の季節になるといつも両手で抱えるほどたくさんのお花をくださいました。春から秋までどれもこれも見事な花房で本堂を飾ったことを覚えています。

◆ 塚田チノさん (船橋市在住)
ハナさんの後を継いでくれたのは塚田チノさん。地蔵の塚田さんは、家の周りの畑にそれは見事な花を咲かせていました。2キロもある遠い道のりを歩いて、お地蔵様と本堂の花を抱えてきてくれました。自分で咲かせた花はなかなか切れないものですが、二人とも仏様への強い思いで惜しげもなく捧げてくれました。



◆ 西巻節子さん (柿崎区在住)
塚田さんの後の現在は西巻節子さんが届けてくれています。この方は三行事に使う大量の花を、花屋さんが大きなバケツに入れて届けてきます。二、三本の花でさえ高いのに、といつも恐縮します。ご本人は「私が生きている内はね」とさらりと話していました。仏さまへの敬いの気持ちを、この女性たちは「献花」という形であらわしています。

◆ 新檀頭さんからご挨拶

檀家の皆さんご免ください。私は今年から檀頭を仰せつかりました大塩です。未熟者で皆様にご迷惑をおかけしますが一生懸命がんばります。宜しくお願いたします。さて皆様、お寺は住職だけのものではありません。私達檀家の皆様一人一人のものです。お寺を綺麗にするのも、明るく賑やかにするのも皆様一人一人の「ちから」です。そこで、皆様をお願いします。お寺の三つの行事＝お寺年始・御影供・お盆お施餓鬼法要には大勢の皆様から参加いただきたいと思ひます。そして、大勢が大きな声で般若心経、光明真言を唱えたら、必ずお寺が明るく賑やかになります。皆様是非ご協力ください。



檀頭 大塩定重氏

◆ 新体制への期待 住職

～ 指示待ちから主体的な活動へ ～

新年、第1回役員会議で私からお願いしたことは「各役員さんが自分の役割を認識して主体的に動いて欲しい、特に檀頭さんのリーダーシップが重要です」と話しました。本山による役員表彰の条件に、その役員がいかに住職を補佐し寺院運営に貢献したかがあります。逆に住職が補佐しなければならぬ指示待ちでは評価されないのです。補佐とは先ず自分の役割に責任を果たし、積極的に運営参加することです。お寺の課題解決のための方策を練り参画していく、ここに檀頭さんのリーダー性責と任感が大きく影響します。

春早々、大塩檀頭さんの声かけで、落葉処理、網戸修理、本堂側溝修理、山門塀塗装、障子の貼替え等々、檀頭さんと星野さんを中心に矢継ぎ早に諸課題を片付けてくれました。久々に、往年の歴代檀頭さん達が示されたあの強いリーダーシップと責任感を彷彿とさせられました。

今後見込まれる檀家数の減少から前途多難と予想させる寺院運営に対して、役員、住職、檀信徒全員が英知を絞る一丸となって対応することが強く求められます。体制を新たにし寺の運営を少しずつ改善させ始めています。ご支援ください。

◆お盆のイベント 落語家 三流亭楽々 師匠の口演

無事成仏すれば苦も無く楽もなく、とはあの世の世界
新盆の精霊さんも今は下界の煩惱など興味なし

ならば、仏さんも、ご先祖さんも、生きぼとけさんも
たまには腹の底から笑っていただく、
それも供養の一つかも？

(^o^)

期日 平成26年8月3日 (日)

場所 蓮光院 本堂

お盆お施餓鬼法要の余興

演目、時間等はお盆の案内でお知らせします。

新潟市には結構落語家のプロやセミプロがいるとい
うことです。ナマラ エンターテイメント所属の落語
家をお呼びします。
毎年呼ばませんが、機会を得たときにはとりわけ
多くの皆さんから参加していただきたいと思ひます。

◆ お寺の夜明け ぶっぱん 仏飯をそなえて 朝の勤行

夏場は5時(冬は5時半)に起きて洗面。炊飯器で炊けたご飯
を仏さまの茶碗=仏器に盛りつけます。てっこ盛りに。その数
16個。神棚→仏壇→地藏堂→本堂の順に上げていきます。
本堂ではそれぞれの仏前にご飯と線香を上げます。上げ終わ
ったら、そこからお勤めに入ります。

本堂でのお勤めは、
観音経・般若心経
光明真言
十三仏真言
祀つてある仏さま14
尊の法号
永代読経供養者の戒名
読み上げ
当山代々先師各霊
壇信徒先祖代々各霊
無縁塔代々各霊



この日はタケノコご飯

お勤めを終わってご飯を集め
め次の地藏堂へ行きます。

地藏堂でのお勤め
般若心経
地藏尊ご真言
信者・壇信徒の依頼された祈願
お勤めが終わってご飯を集め、次の仏壇にお勤め。
般若心経
光明真言
寺族の先祖代々各霊
ご飯を集めて神棚へ
神棚のお参り 二礼二拍一礼
ご飯を下げて勤行終了

帰ってきてご飯を釜に戻し、仏器を洗う。すぐにゴミ出しに。
戻ると生き物たちの餌作り。それを与えてようやく朝食の準備
になります。先ほどの仏さまのご飯をいただきます。ご飯は一
粒も無駄にしない、そう気を遣っていただいています。

食器の洗いが済むと仕事の始まり。草取り、庭掃き、片付け、
修理、時には墓地参道の清掃。昨年からのボランティア活動の
お陰で、少しずつ自分の時間も取れるようになりました。

1年中、これが住職の日常です。これを辛いと思ったことも
ありますが、それに負けたら住職返上となってしまいます。仏
飯を上げ経を唱え、寺を掃き清め守り抜く。寺に住みそれを務
めるから住職というんだそうですから。

◆ 総本山長谷寺の「壇信徒萬霊回向」に
お申込みをされた方々(お申し込み順)

西 哲 様	赤 澤 豊 信 様
矢 作 康 三 様	片 山 美 代 吉 様
大 塩 恒 夫 様	大 塩 定 重 様
西 村 成 太 様	中 村 淨 光 様

お盆まで募集をしています。

◆【25年度に法事・上げ齋供養をなされた方々】
～ ありがとうございます～

1/23 見竹美智代様	5/26 西巻正和様	10/4 船山琢郎様
1/24 大塩恒夫様	6/1 武井辰夫様	10/6 生方國延様
2/8 松丸裕子様	6/16 西巻勝雄様	10/19 西巻良一様
2/17 赤澤豊信様	6/22 丹羽 収様	10/20 村山牧子様
3/10 武井昭男様	7/13 西巻 哲様	10/24 西巻ソヨ様
3/24 西村栄治様	7/20 塚田建一様	11/3 西村利夫様
3/30 矢作康三様	7/27 山本美和子様	11/4 大塩子ヨ様
4/6 高沢康夫様	7/27 西巻映子様	11/13 片山美代吉様
4/14 西村妙子様	8/10 長沢俊一様	11/24 和田道春様
4/27 吉村一哉様	8/11 塚田孝志様	11/24 西巻善幸様
5/3 長沢俊一様	8/15 神林恒道様	11/30 大塩久司様
5/6 坂田ヒデ子様	9/13 黒崎 昇様	12/25 西巻正和様

とき
◆ 瞬間の移ろい



穏やかな秋にはこの
境内も色付きました。



長い冬は 墨絵の世界



そして待望の春

